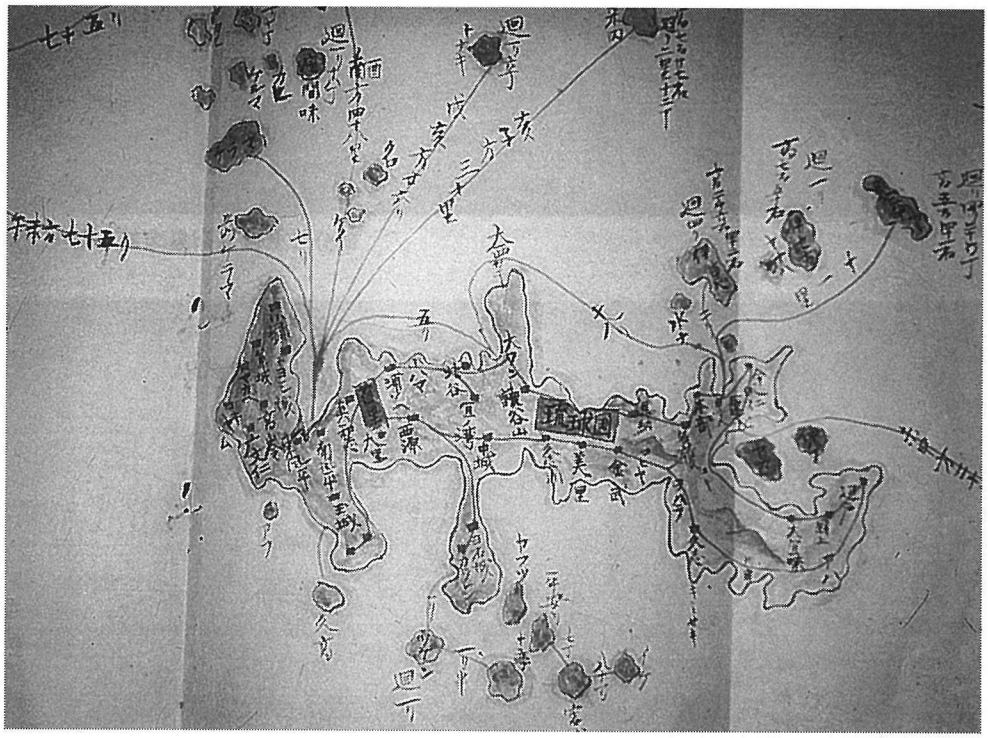
琉球に関する古地図資料

平　岡　昭　利

1994～97年の文部省科学研究費重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」(代表　岩崎宏之　筑波大学教授)に1995年より「琉球・沖縄に関する地図・地誌資料の集成」，1996～97年「琉球・沖縄に関する古地図資料の集成」の研究班に参加した。分担は主に沖縄を除く，九州各県の琉球関係の古地図のデータベース化であり，そのため各県に出向き古地図の所在の確認とその状況の把握と写真撮影につとめた。本資料は，沖縄県外で，「大島古図」など余り知られていない琉球関係の古地図と二つの東アジア図を収録した。

(1) 古琉球之図



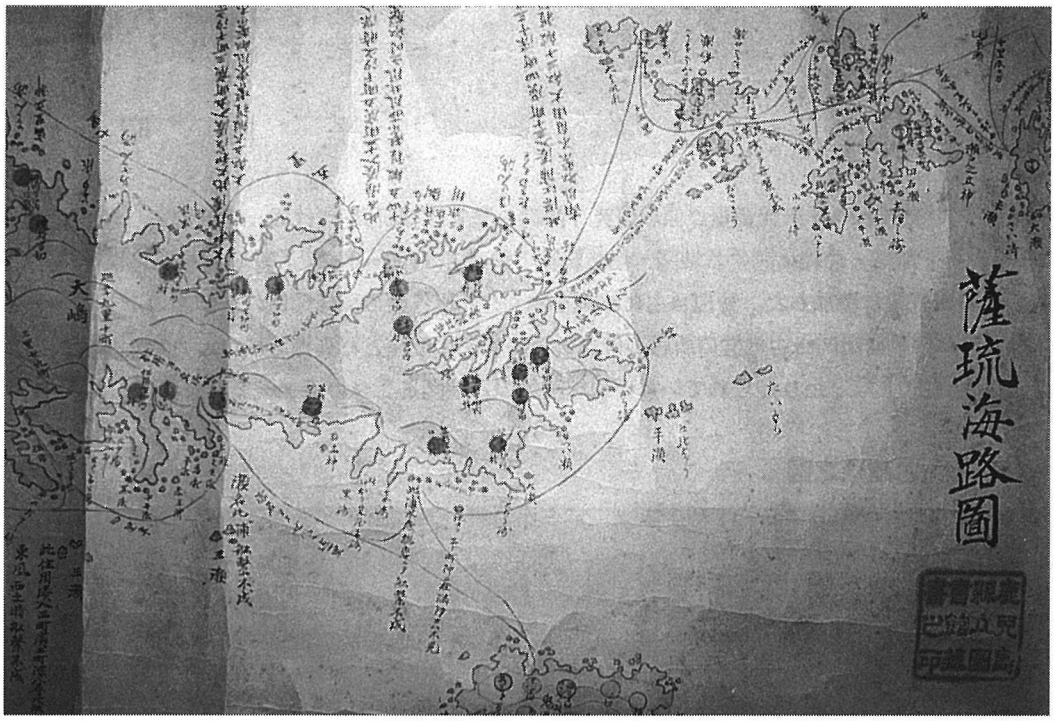
部分：古琉球之図のうち沖縄本島

作成年(時代)	江戸時代	員　数	1舗
作成者	不明	所　蔵	鹿児島県立図書館
形　式	折りたたみ	請求番号	K2992コ
版　種	彩色手書	その他	模写されたもの
寸　法	28.5cm×42.5cm	主要地名	間切名と主要集落，周辺の島々。

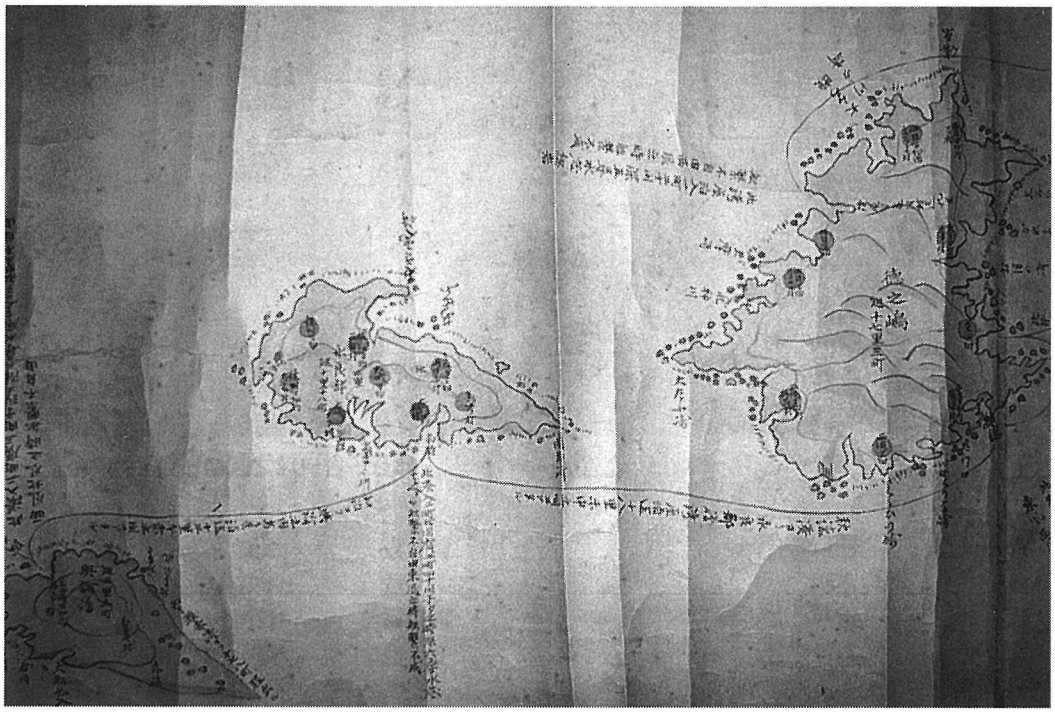
［解　説］

琉球国のうち，沖縄本島と周辺の島々と宮古島だけの地図であり，琉球の全体図の断片図である。沖縄本島は間切名のほか，2，3の主要集落名が，周辺の離島の主な島々については石高と島の周囲が記入されている（久米島3667石，周囲6里20町，粟国島727石，周囲2町12里，伊江島2642石，周囲4里，伊是名島750石，周囲1里，伊平屋島2642石，周囲4里24町)。宮古島は主要地名が記入され，石高1万2458石，周囲11里とある。赤線で海路が描かれ，那覇からの方位や距離が記入されている。図中に，島津氏の琉球支配について「公田となる慶長14年島に代官職を差渡され，島人の等級を分ち，貢税の数を定給う……」と書かれてある。

(2) 薩琉海路図

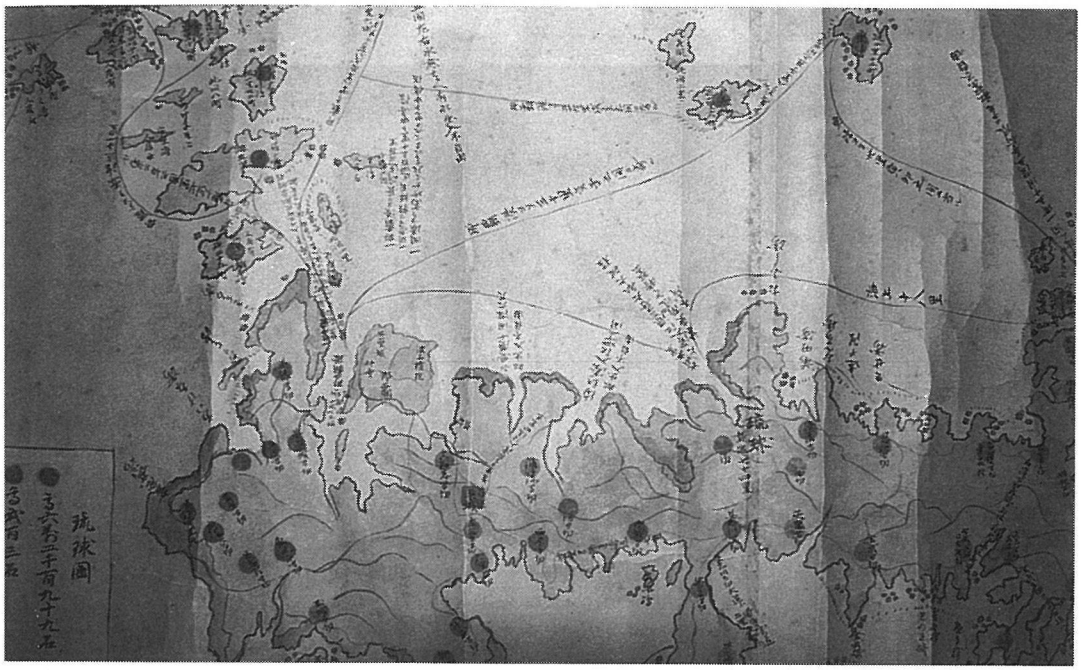


部分：トカラ列島南部～奄美大島

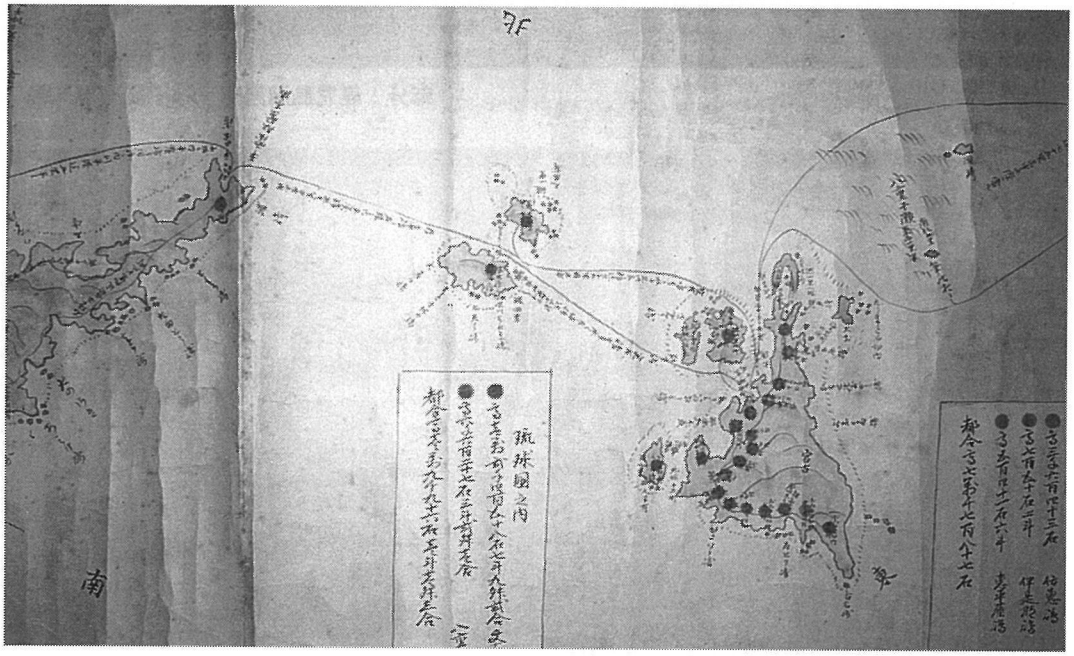


部分：徳之島・沖永良部島・与論島

作成年(時代)	江戸時代後期	寸　法	38cm×289cm
作成者	不明	員　数	1巻
形　式	巻子	所　蔵	鹿児島県立図書館
版　種	彩色手書	請求番号	K29 サ 19
主要地名	トカラ列島から与那国島に至る南西諸島の島々。海岸を中心に小島や岩礁なども詳細に記載。		



部分：沖縄本島と周辺離島（右が北）

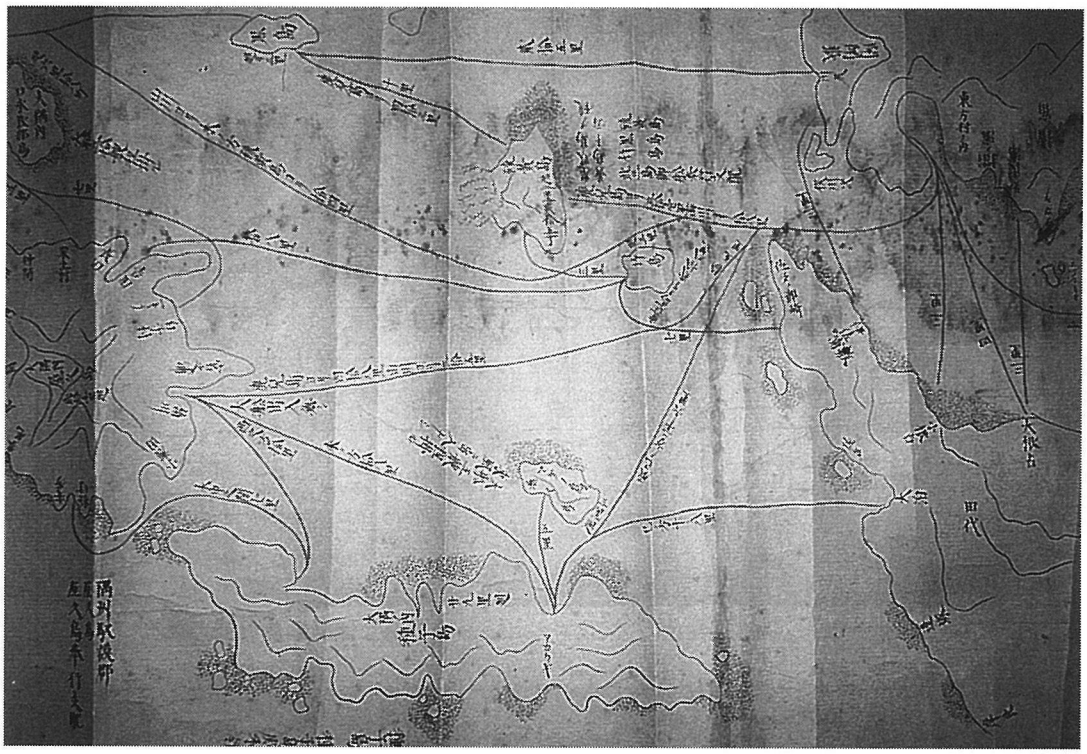


部分：宮古島～石垣島北部

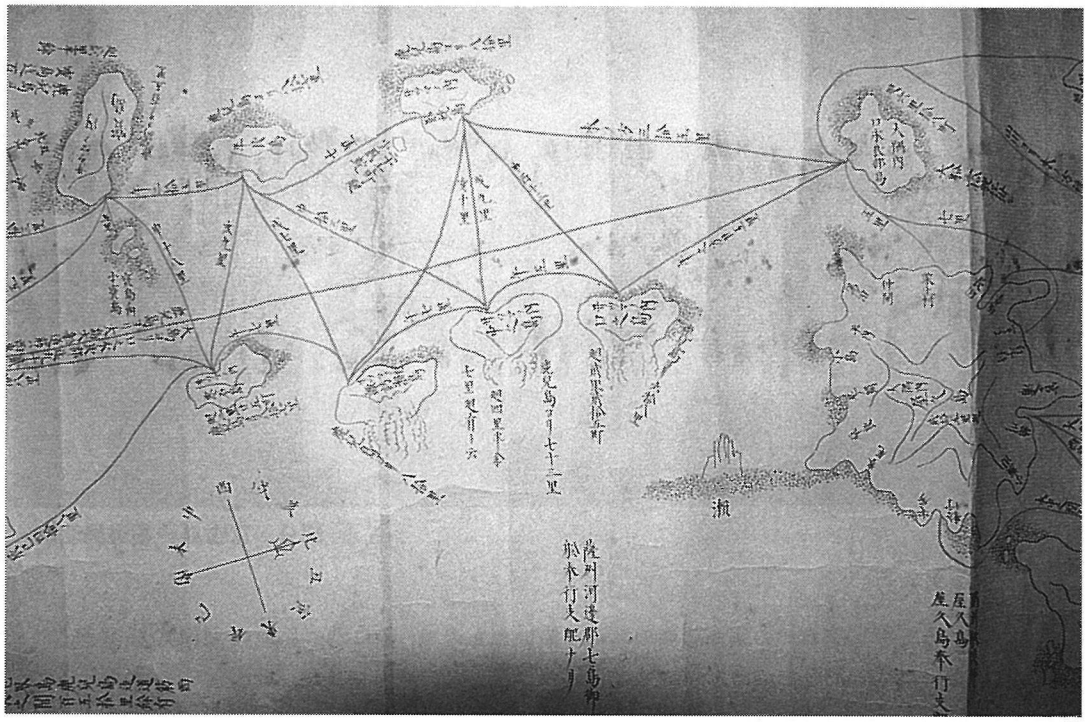
［解　説］

トカラ列島から与那国島までの南西諸島の海路を描いたもので，主に港や島々の海岸の描写が詳細である。描かれた島の形態や位置については正確とは言えない点もあるが，地図目的が海路図であるため，港の形状(広さ，水深，風の状況，繋船の可否など)は詳しく記載され，島々間の里数が記入されている。沖縄本島の運天港については「此運天湊，広二町，入一里二十七町，深二十尋，大船五，六艘程繋，何風ニテム船繋自由」と，また奄美大島の名瀬港は「此名瀬湊，入十二町，広五町，干汐之時深八尋，大船十四，五艘程繋，西風，北風之時船繋不自由」とある。多くの港は珊瑚礁のため「出入不自由」「船繋不成」との記入が目立つ。小さな岩礁なども細かく地名が記載され，航行の注意を促すように実際より大きく描かれている。宮古島の北方に広がる「八重千瀬」(やえびし)と称する大きな礁原は，「南北五里」「東西一里半」と広さが記載されている。島々の陸地は主要な集落と道路，沖縄本島の首里は平城と記入されている。また，主要な島々は石高の記載がある。近世の南西諸島の海路や港を中心とする地理的状況を把握するための地図として貴重である。

(3) 南東海路略図

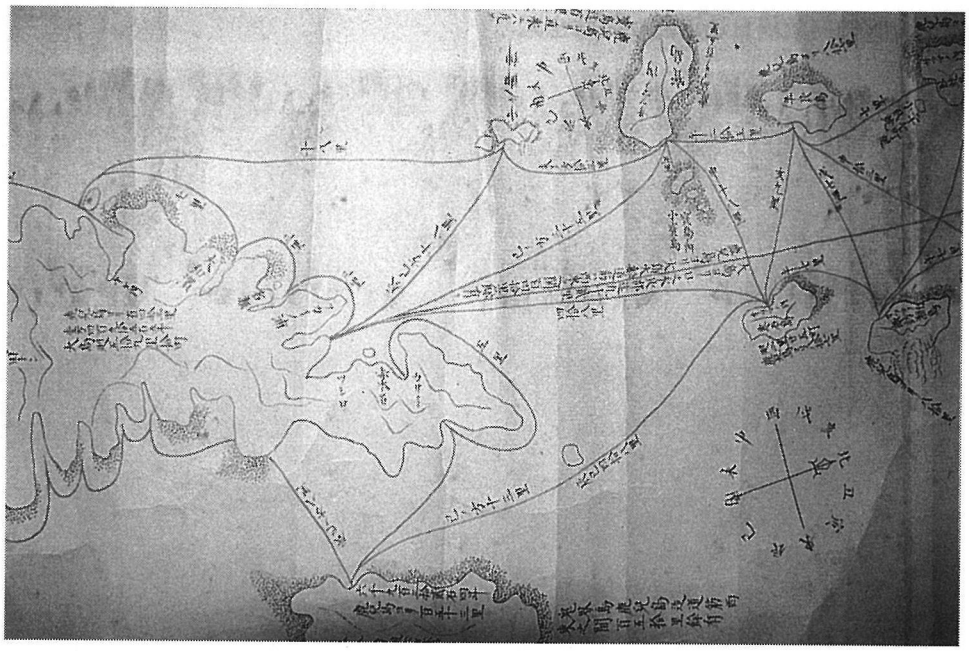


部分：鹿児島湾南部～種子島～屋久島

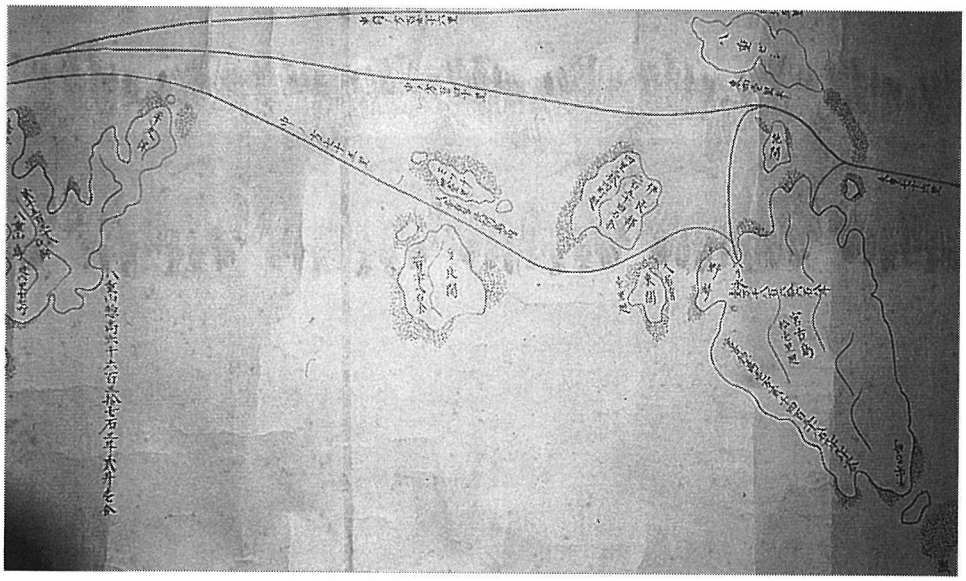


部分：屋久島～トカラ列島

作成年(時代)	江戸時代後期	寸　法	27cm×271cm
作成者	不明	員　数	1巻
形　式	巻子	所　蔵	鹿児島県立図書館
版　種	手書	請求番号	K2992ナ
主要地名	鹿児島湾から琉球，与那国島に至る南西諸島の島々，主要な港，集落を記載。		



部分：トカラ列島，奄美大島，喜界島



部分：宮古諸島，八重山

［解　説］

鹿児島湾から琉球までの海路を描いた主題図である。とくに方位を正確に記しているところに特徴がある。地名は，島といくつかの港や集落を記入しただけで，簡単なものになっている。方位は，鹿児島からの下りを基準としトカラ列島の宝島から奄美大島までは「巳(南南東)ノ方ロ三十五里」と，沖縄本島から宮古島へは「未申(南西)七十六里」，宮古島から八重山（石垣）までは「申(西南西)ノ方，七十五里」，西表島から波照間島までは「未(南南西)方，十八里」などと記入されている。鹿児島からの距離や島々間の距離の記載も詳細である。なお，琉球が支配した徳之島の西の硫黄鳥島は，「子丑(北北東と北の間)五拾四里」と那覇からの方位と距離が記入されている。

主要な島々，例えば奄美大島では「鹿児島ヨリ百四拾三里，壱万四百九拾五石五斗，大島回五拾九里拾町」など距離や石高，周囲などを記入している。硫黄島，口之島，中之島，諏訪瀬島，鳥島（現在の硫黄鳥島）は，噴煙をあげている火山島として描かれ，噴煙が航行の際の目印になっていたものと考えられる。図中の島の周囲の海に点描が記入されているのは，平瀬付近と推定される。宮古島の北に展開する大礁原の浅瀬「八重ビシ」（八重干瀬）浅瀬や珊瑚礁を示し，屋久島とトカラ列島の口之島間に描かれている点描の「瀬」は，島の如くに描かれている。

(4) 御領内薩隅日琉球島々路程全図

部分：薩摩，大隅，日向国，種子島，屋久島，トカラ列島

部分：奄美諸島，沖縄本島，周辺離島

作成者	不明	員　数	一巻
形　式	巻子	所　蔵	鹿児島県立図書館
版　種	彩色手書	請求番号	K29サ884
主要地名	島津藩領のうち鹿児島本土の郷名，奄美諸島と琉球国の島名，間切名，主要な集落を記載している。		

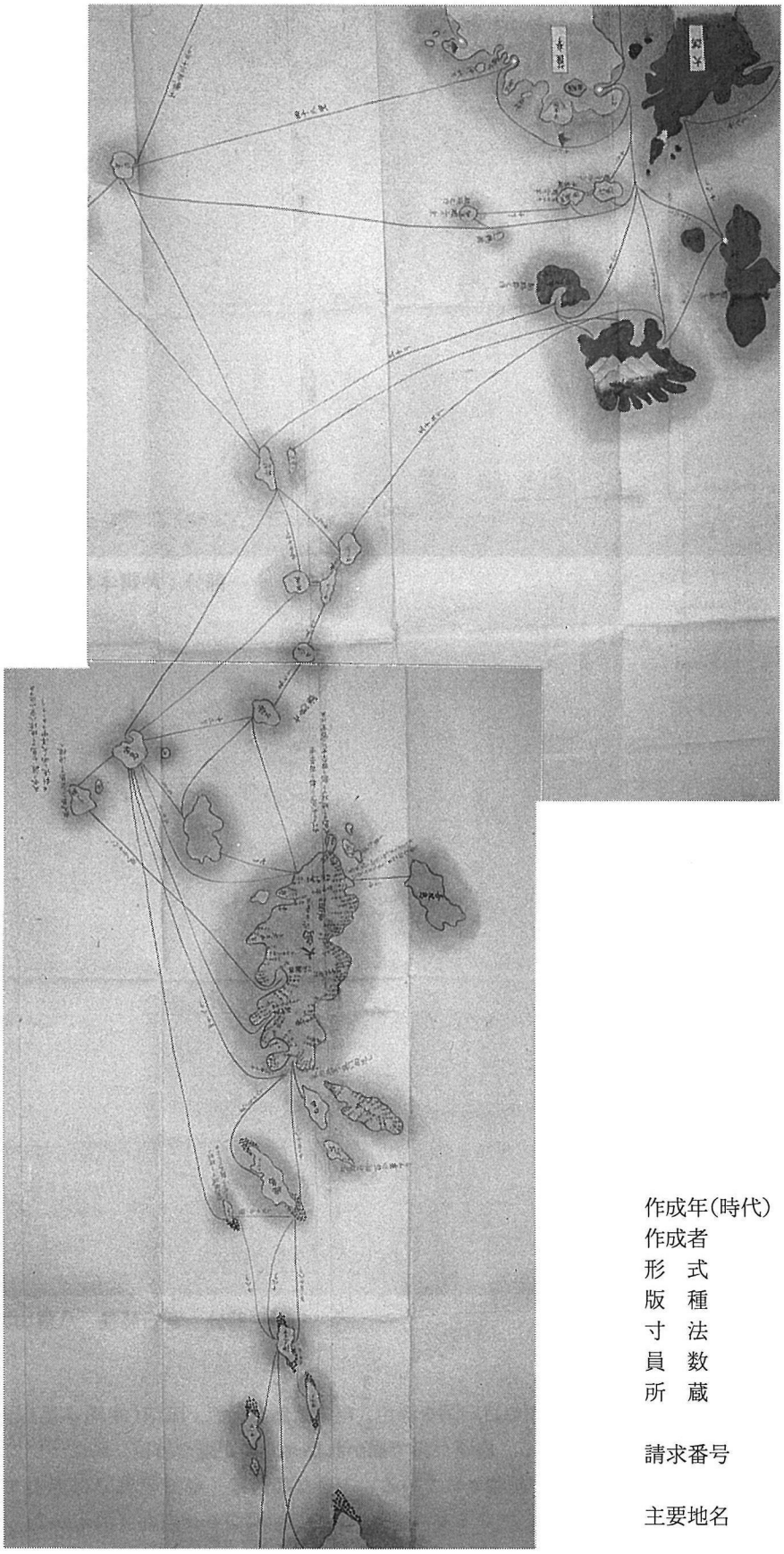
部分：沖縄本島，周辺離島

部分：宮古諸島，八重山諸島

［解　説］

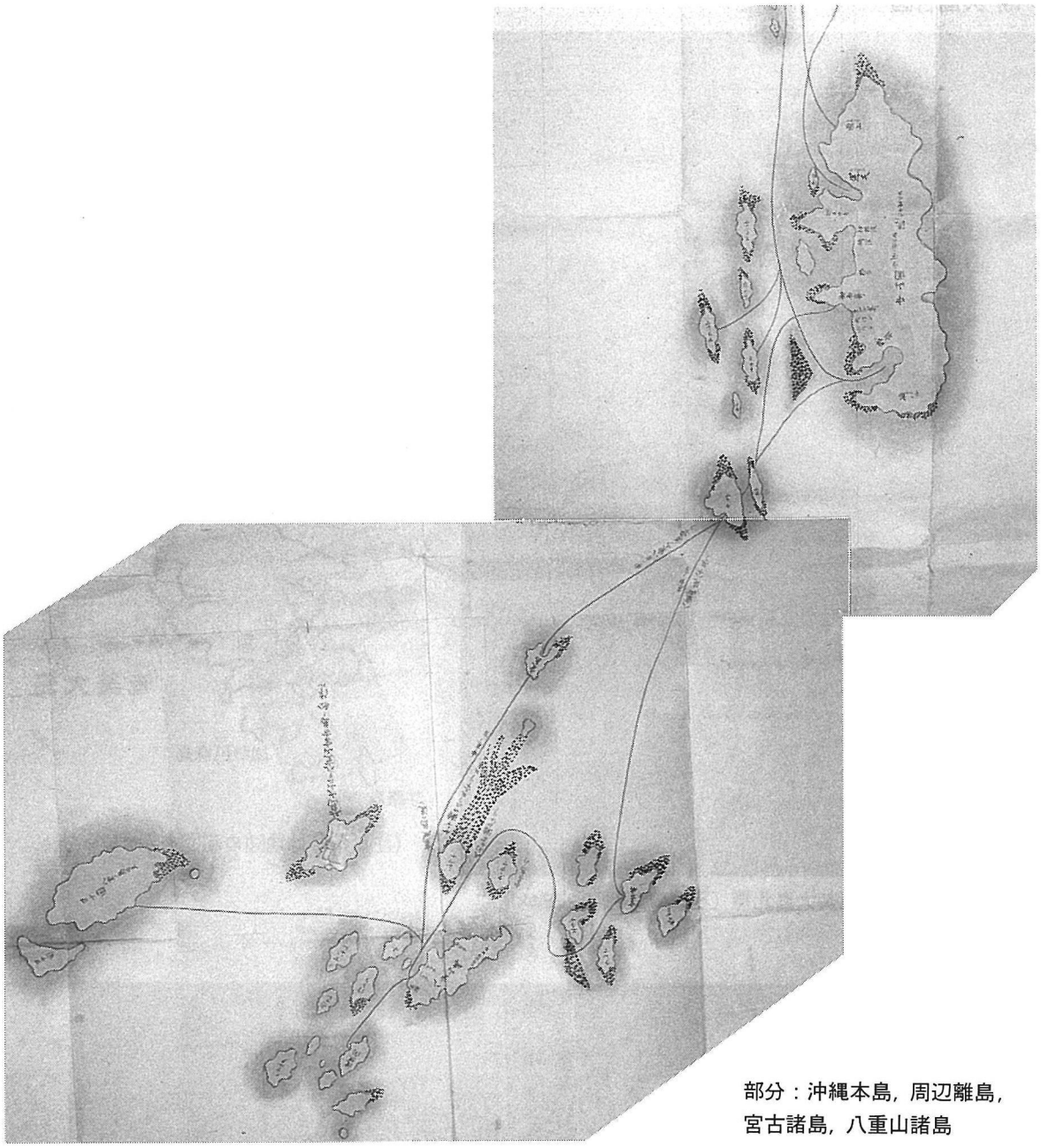
薩摩国を黄色，大隅国をこげ茶色，島津藩領の日向国を赤色，奄美諸島を橙色，琉球（沖縄本島以南）を紅色で着色した島津藩領（含琉球国）の地図である。海路が赤で描かれ島々間の距離や方位，島については島名や石高，周囲，鹿児島との距離，主要な集落が記載されている。主要な集落は，奄美諸島では赤丸で，鹿児島本土では郷単位に１集落を同じく赤丸で描いているが，沖縄本島では，間切りが白丸（消えかかっているが）で描かれており，島津氏直轄領の奄美諸島と琉球国を明確に区分している。地図の上部には，島津藩領の郡名と郷名，各郷の石高と鹿児島からの距離の一覧，島津藩の略史などが記載されている。

(5) 琉球絵図



部分：薩南諸島，トカラ列島，奄美諸島

作成年(時代)	江戸時代初期
作成者	不明
形　式	折りたたみ
版　種	彩色手書
寸　法	210cm×110cm
員　数	１舗
所　蔵	財団法人　鍋島報効会
請求番号	佐賀県立図書館 古地図絵図目録 78
主要地名	南西諸島の島名



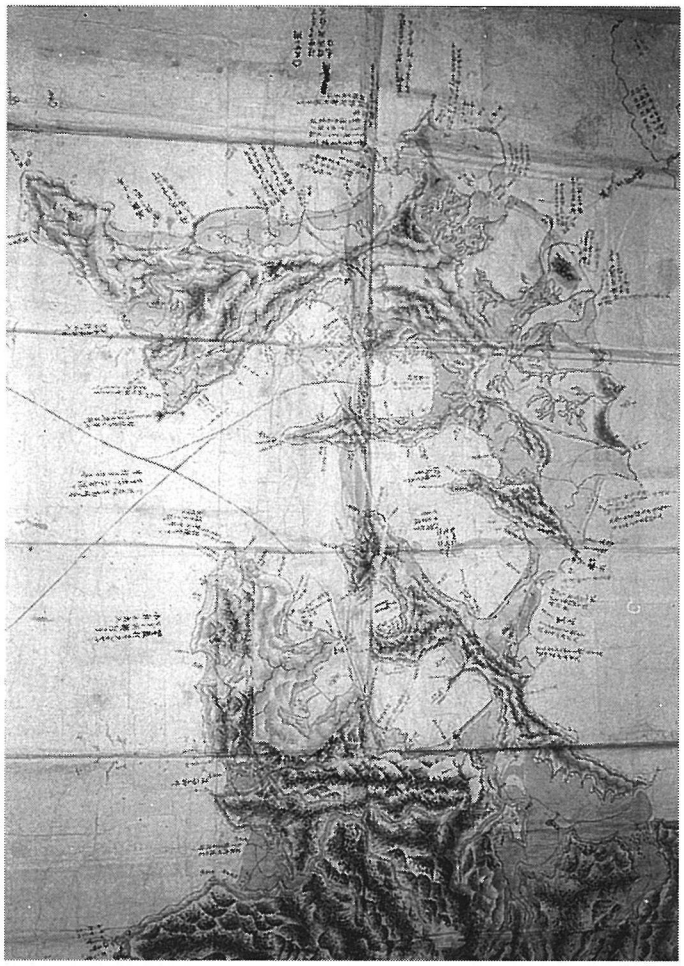
部分：沖縄本島，周辺離島，
宮古諸島，八重山諸島

［解　説］

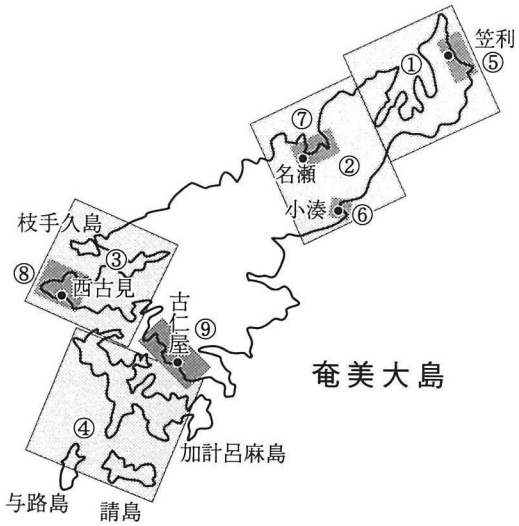
鹿児島から琉球までの南西諸島全域を描いた海路図である。赤で海路と里数が記入されている。全域に着色が施され，大隅国の種子島，屋久島などは赤で，薩摩国のトカラ列島は黄で，ただし，トカラ列島南端の横当島と存在しない島が緑となっている。慶長14年(1609)の島津氏の侵略で，直轄領となった奄美諸島は，多くの地図では同一色で示しているが，この図は奄美大島，喜界島などは緑，徳之島以南が琉球と同じ黄で描かれている。徳之島以南の島の周囲の海に表れている深緑色の点描は，珊瑚礁を表し，宮古島西方には「ヤヽブ瀬」（八重千瀬）の礁原が，大きく描かれている。

島の形態や大きさ，位置など全体に正確さを欠き，しかも，鹿児島から南下すればするほど不正確となり，宮古諸島と八重山諸島は区分なく描かれている。西表島より与那国島が大きく描かれ，位置関係もまちがっている。奄美諸島では加計呂麻島の位置がずれており，また，トカラ列島の南端の宝島と奄美大島間には実在しない架空の島が記載されている。このように琉球を描いた他の地図と比較して，地理的認識が非常に低いことから，作成時期が早いのではないかと推察できる。なお，島の特徴について2，3の島には，西表島「此島大山ニテ八重山，宮古島ノ船作ル」，徳之島の西の鳥島「此島硫黄アリ，琉球ノ支配ニテ飯米下ルト云」などのように記入している。

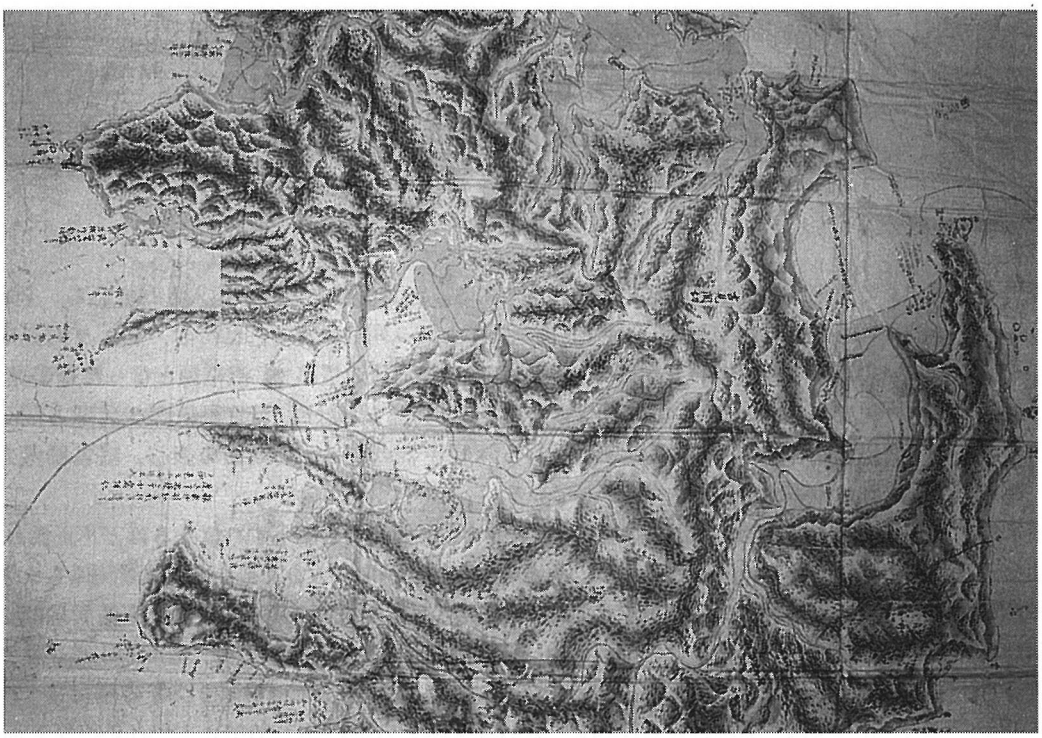
(6) 大島古図



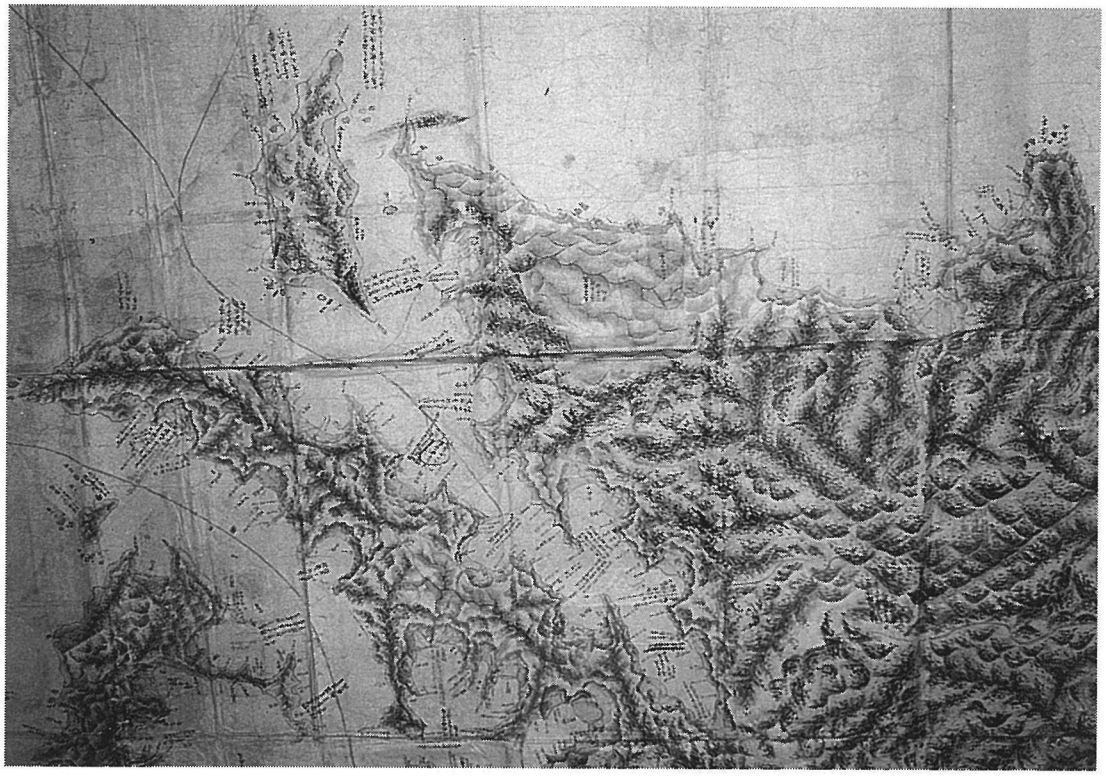
部分①：奄美大島北端（現在の笠利町　左が北）



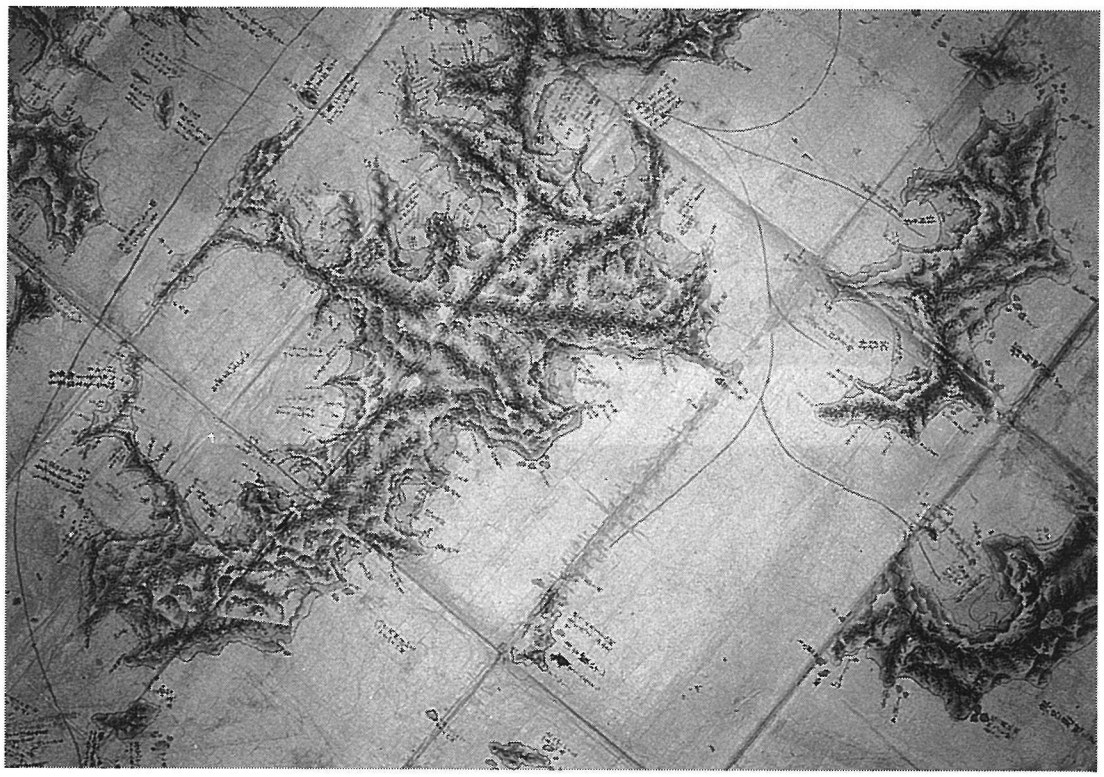
（注）番号は地図の範囲を示す。



部分②：奄美大島北部（現在の名瀬市）

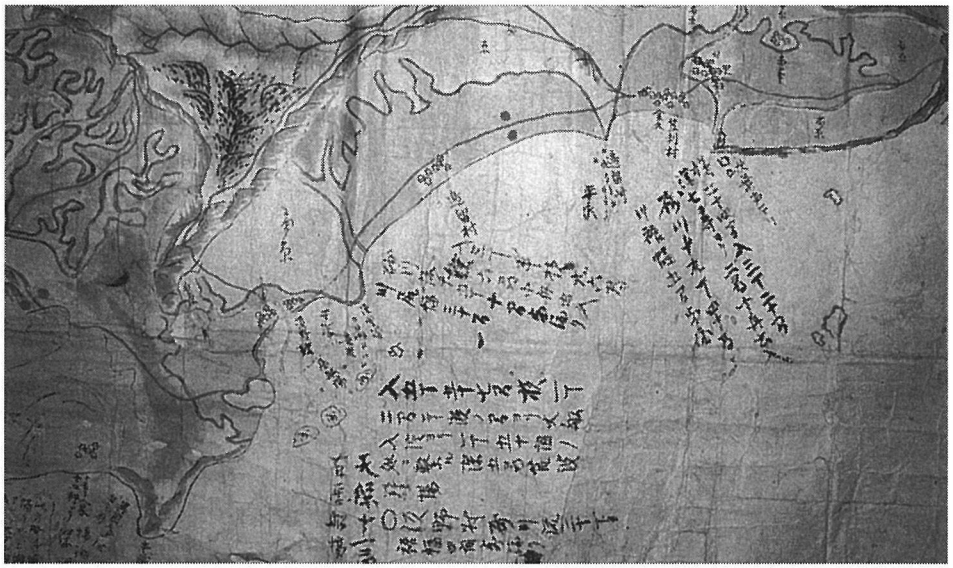


部分③：奄美大島南西部（焼内湾，枝手久島など）

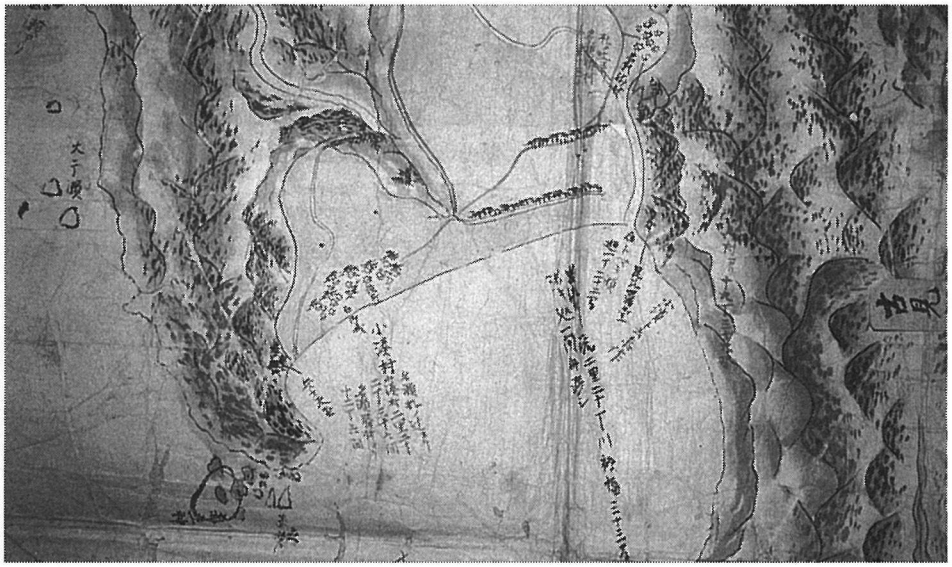


部分④：加計呂麻島，請島，与路島の一部

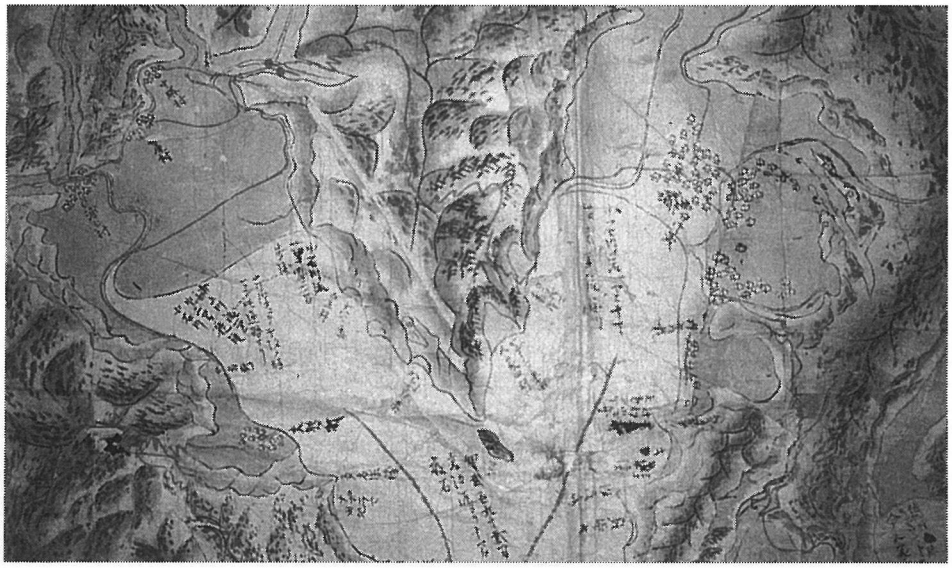
作成年(時代)	江戸時代末期	寸　法	159cm×350cm
作成者	不明	員　数	1舗
形　式	折りたたみ	所　蔵	鹿児島県立図書館
版　種	彩色手書	請求番号	K2984オ
主要地名	奄美大島について極めて詳細に地名を記載している。		



部分⑤：笠利～アヤマル岬（右が北）



部分⑥：小湊集落（現在の名瀬市小湊　下が北）



部分⑦：名瀬（下が北）

部分⑧：奄美大島西部，西古見集落，曽津高崎

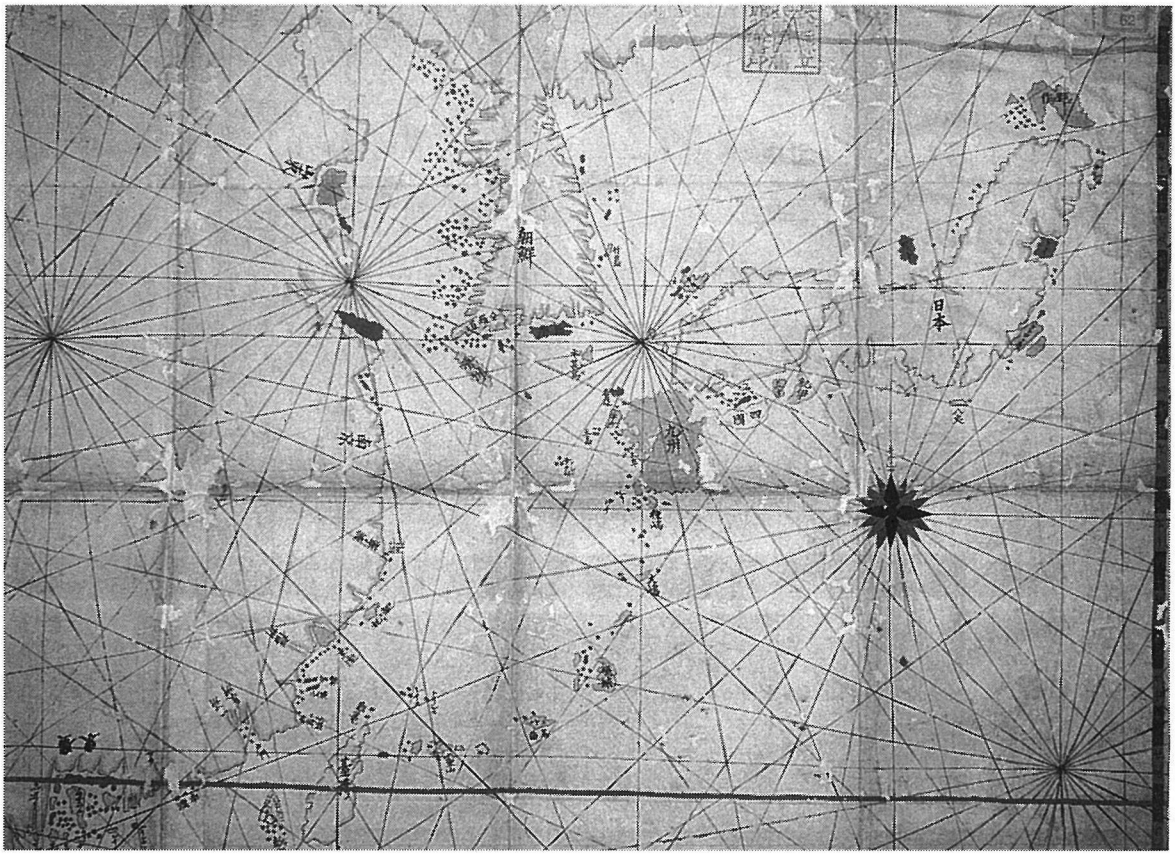
部分⑨：古仁屋と周辺

［解　説］

奄美大島について，他に類を見ないほど詳細な地図であり，きわめて貴重なものである。耕地は黄色，山地は黒色の濃淡をつけて高低を表わし，土地の状況については，適宜，注記が添えられている。わずかな耕地にも，田作，黍(キビ)作，芭蕉など植え付け作物が書かれてある。また，河川については長さや幅，水深，橋など，小さな池までもその大きさや水深などが記入されている。焼内湾に流れ込む河内川は「流二里三十五丁二間，横五間，深二尺，徒渡」とある。集落は家の形を記入して表わし，描かれた家の形が多いほど大きな集落といえ，記載内容から集落規模や形態は判断できる。集落内には役所，お蔵，さらに弁財天堂や昆沙門堂等が描かれている。集落以外の家屋の点在についても「人家二軒，人家七軒」のように注記がある。集落間の距離と主要道路については赤で記入され，名瀬市小湊集落の場合，「名瀬札ノ辻ヨリ小湊村二里二十二丁三十六間，名瀬勝村ヨリ十二丁六間」と奄美大島北部は名瀬が起点となって，距離を表示している。

海岸，湾入，岬，小島，岩礁の名称，海底の状況，浅瀬の水深などが記入され，「ボシ瀬，ボシ崎」を「島民物ノ群集セルヲボシト言」と岩礁の由来まで記載されてある。奄美大島北部の景勝地であるアヤマル岬の近くには「異国人上陸セシ所」との記入がある。海路は赤線で引かれ，港についても古仁屋「港口幅十五丁二十三間，深十三尋，船居所十二尋」と各港とも詳しい注記がある。奄美大島北部の赤木名集落には船繋場と思われる一本の掘割りのような水路が設けられ，また，奄美大島中部の大和浜集落にも円形の船溜りと思われるものが描かれている。近世の港を考えるうえで，きわめて興味深い。地図の東端には喜界島が，南には徳之島が描かれ，それぞれの村々の名称も記入されている。縦159cm，横350cmと大きくて，非常に詳細な地図である大島古図は，近世末の総合図といえ資料的価値が極めて高い。

(7) 東洋南洋航海古図



部分：東アジア（日本，朝鮮，中国）

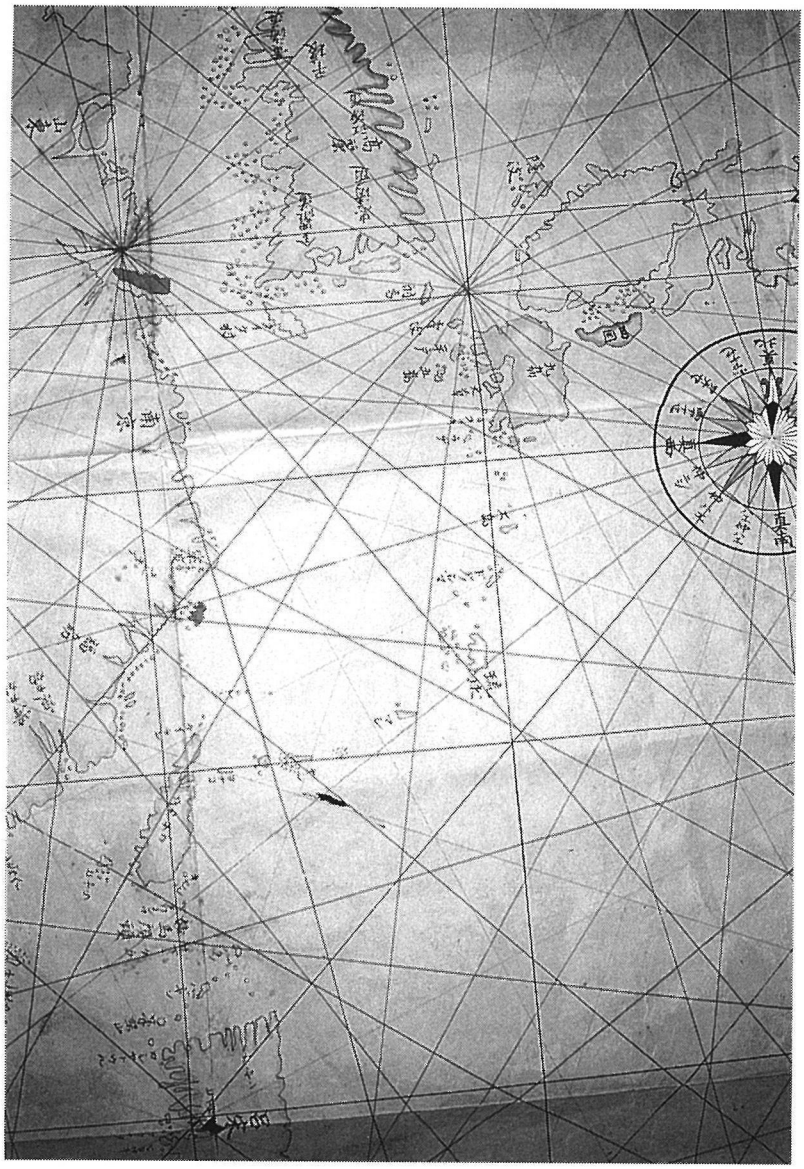
作成年(時代)	江戸時代中期
作成者	櫨　高朗
形　式	折りたたみ
版　種	彩色手書
寸　法	88cm×67cm
員　数	1舗
所　蔵	長崎県立長崎図書館
請求番号	3―62―1
その他	大阪府立図書館編『南方渡海古文献図録』　臨川書店　1992年復刊
主要地名	島名，岩礁，浅瀬，都市，港，地域名など。

［解　説］

ジャワ，スマトラなど赤道付近から，中国，日本など東アジア全域を描いた航海図である。赤道と北回帰線は赤線で引かれている。大航海時代，ヨーロッパ製の日本図には，1600年前後から本州の東海岸にToyなど3～4の島々が描かれており，この図も「トイ」「ナジマ」など同じように描かれている。また，ジョンセラーのポルトラノ様式の海図とよく似ていることから，ヨーロッパ製地図や海図をもとに1600年代末に描かれたものと考えられる。ただ，ヨーロッパ製地図に現われた北海道が，半島のように描かれたりするように，不確定の要素が強いのに対して，この図は形態はともかく島と思われ，渡島半島を描いたような感じとなっている。

琉球から東シナ海にかけては，ヨーロッパ製地図よりも正確である。琉球(沖縄本島)，大島，種島(種子島)，馬歯(宮古島)，八重山，平戸など大きな島ばかりでなく，小さな島，シキ(甑島)，ウチ(宇治群島)，女島(男女群島)，トリシマ，レイス(尖閣列島）なども記載されている。中国，朝鮮などの海岸地域も詳しく描かれ，かなり精度が高い。図中の右下に，作成者の帰化中国人の櫨　高朗の署名がある。

(8) 航路海路図



部分：東シナ海

作成年(時代)	江戸時代中期	員　数	1舗
作成者	不明	所　蔵	長崎市立博物館
形　式	折りたたみ	請求番号	図75
版　種	彩色手書	主要地名	海岸線，島などの地名が中心
寸　法	89cm×67cm		

［解　説］

ジャワ，スマトラの赤道付近から北の東アジアを描いた航海図である。東洋南洋航海図（長崎県立長崎図書館所蔵）と同じ範囲を描き，同類の地図といえ，1700年前後の作製と思われる。東洋南洋航海図には，赤道，北回帰線が赤線で引かれているが，この図には描かれていない。また，地名の表記が異なるものもある。東洋南洋航海図では「朝鮮」,「済州」とあるが，この図では「高麗」,「ダイタ村」となっていることから，延宝8年（1680）に日向国に漂着した波丹人（バタン島民）を取り調べた長崎奉行所の報告書（『波丹人絵巻』）の付図を模写した可能性が高い。波丹人絵巻の付図は，朝鮮を「高麗」と，済州島を古くからの呼称である耽羅の「ダイタムラ」と記載しており，この図では高麗はそのまま記載され，「ダイタムラ」は「ダイタ村」と日本的に誤って記入されたものと考えられる。